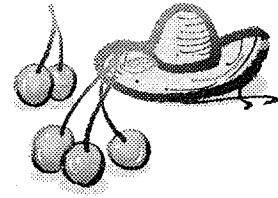


診断京都

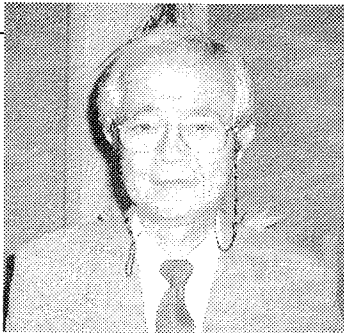
No.82
2006年 夏号



社団法人 中小企業診断協会京都支部

変化への挑戦

支部長 玉垣 勲



現状維持は退歩

先日 松下電器産業の戸田副社長の話をお聞きした。同氏は大学同窓で私の3年先輩である。1時間余りの講演で、タイトルは「破壊と創造」、バブル崩壊で失われた10年、日本経済、企業の実態、同社の数年前に赤字転落とその後の復権の道程を熱く語られた。

私はかねてから現状維持は退歩、変化への果敢な挑戦、そのための“創造的破壊”（用語は経済学者シュンペーター）が資本主義社会で生き延びる方途である、と信じている。

中小企業診断協会も創立51年目とは言え、過去の歴史に甘んじることなく、時代・環境に適應できる自己革新が欠かせないと思っている。自戒ではあるが、京都支部においても変化への挑戦、過去の踏襲に甘んじることなく、未来に向かって英知を絞り、果敢な行動力が問われる。

新診断士制度の方向性

診断士は法令上で独占業務（領域）を保證されていない経済産業省所管の国家資格である。弁

護士（法務省）、税理士（国税庁）、社労士（厚生労働省）とは違う。その存在価値は、自助努力以外に無く、評価は地域経済社会、地域の中小企業者によって決せられる。快い言葉“診断士先生”に酔ってはられないし、時代・環境が激変期のいま我々診断士は18年度から施行の新診断士制度への適應のため新たな課題を担った。

新制度では診断実務従事要件が新設された。すなわち、5年毎の資格更新クリアのバーが高くなったのである。この変更は、ブラッシュアップで資格を取得し資格維持を考えている企業内診断士、独立診断士のうち診断士業を専業としていない人にとっては、意識と行動の轉換を迫られることとなった。

診断協会支部の ビジネスモデルを目指して

わが京都支部会員のマジョリティは企業内診断士である。もちろん、資格維持は個々の診断士の自己責任で果たしていただくことに変わりはない。しかし、京都支部会員同士は、新制度下、これまで以上に“連帯”を強化して、支部組織として独自の新しい施策も駆使して、診断士の資質とその社会的ステイタス向上に務めたい。

と同時に関係行政、諸機関との一段の“連携”強化に尽力し、共々手を携えて地域経済の活性化、地元中小企業の方々へのサポートに万全を期す所存である。

以上

「事業存続に向け経営革新に取り組む府内中小企業者へのサポート強化を」 ～身近な専門コンサルタントの役割が求められる中小企業診断士～

会員 辻 一幸 (企業内診断士 勤務先: (財) 京都産業21)

地球温暖化の影響かどうか、今年の夏も京都では蒸し暑い日が続いています。経済関係の話題としては、日銀の金融政策の如何によっては、我が国経済に様々な影響が出てくるのではないかとされている中で、中小企業の経営診断業務に従事する立場にある中小企業診断士としては、注意深く動向を見ていく必要があると考えています。

さて、京都府内の状況について、事業所の事業活動及び企業活動の状態を調査し、我が国における事業所及び企業の産業、従業者規模等の基本的構造を明らかにする「事業所・企業統計調査」を見てみましょう。平成16年調査は、5年ごとに実施する調査の中間年に行う簡易調査として、民営の事業所のみを対象に調査項目を絞って行われました。平成16年6月1日現在、京都府内の民営事業所は132,189所であり、前回13年10月1日調査に比べて、8,522所減少(6.1%減少、参考:全国5.7%減少)しました。非農林漁業事業所について産業大分類別に事業所の増減状況の傾向は下図のようになっています。

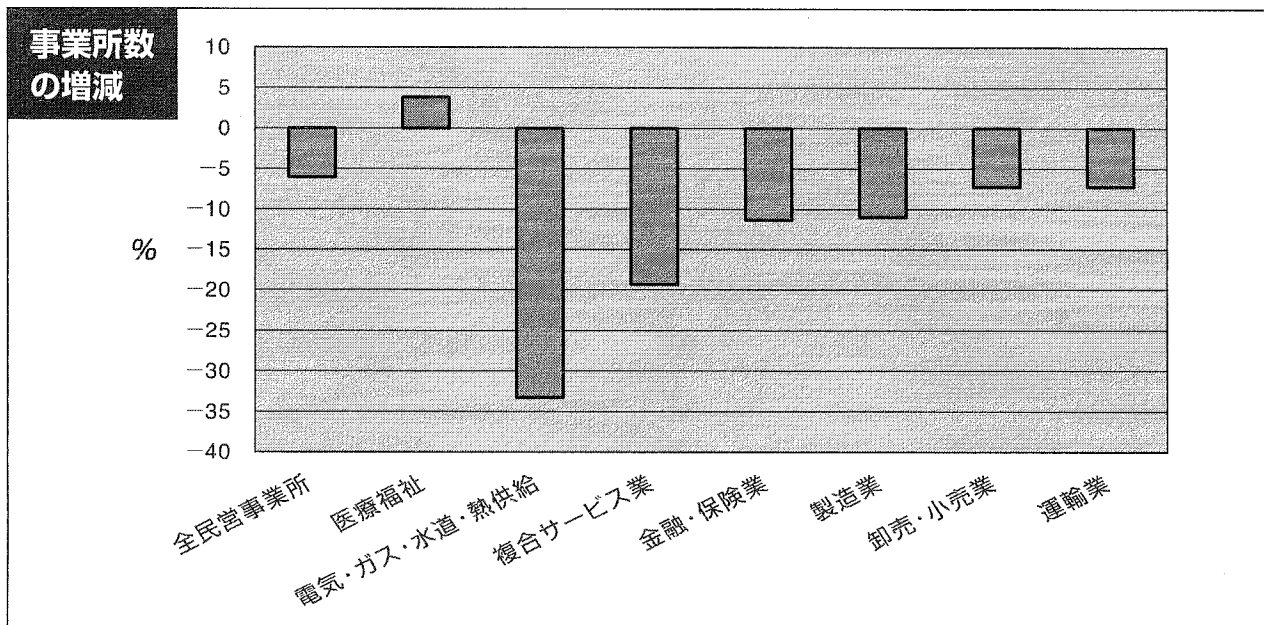
また、平成16年6月1日現在、京都府の非農林漁業の存続事業所数115,008のうち、「事業の転移あり」と回答した事業所数は12,199(構成割合10.6%)でした。これを産業大分類別に見ると、事

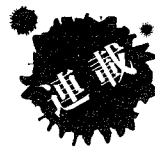
業の転移ありと回答した業種では「卸売・小売業」が21.5%と最も多く、次いで、「教育、学習支援業」(19.8%)、「サービス業(他に分類されないもの)」(13.5%)という状況でした。

これら事業所・企業統計調査の結果から、グローバル規模での競争激化や、消費者ニーズの変化、高品質、低コスト、短納期化等、経営を取り巻く環境の激変に対し、経営者の高齢化や後継者難など内部に事情を抱えながら、事業存続に向けて、懸命に経営の革新に取り組む多くの府内中小企業者の姿が浮かび上がってきます。

中小企業診断士は、経営革新等の経営課題に取り組む府内中小企業者に対し、身近にいる専門家として経営診断の面からサポートを強化していくことが求められています。

このため、今後とも、(社)中小企業診断協会としての取組を基礎としつつ、国、独立行政法人中小企業基盤整備機構、京都府、市町村、(財)京都産業21、(財)京都市中小企業支援センター、商工会議所、商工会等、支援機関との連携、協力を図り、府内中小企業者に対して、中小企業診断士の利用の方法等についてPRを強化し、中小企業者へのサポートに努めていく必要があると言えます。





プロコン講座

まず経営者との関係が大事

岸田 道彦

中小企業経営の90%以上は経営者—社長にかかっているとはよく言われることである。まさにその通りと思う。—コンサルとして、それなりの成果を上げるためには、やはり社長との良好な関係を維持することが大切なので、その切り口から見た私見を述べてみたい。

良好な関係とそれなりの客観的成果のために何が必要か。次の3つの点が大切と思う。



1 社長に「問題意識と向上心」を持ってもらうこと

社長を含め、幹部会議などの場で一番効果的なのは、何と言っても業績の状況を数字で分かりやすく整理し、問題点として突きつけることである。その途端、会議の場の雰囲気さがと変わるのを感じる。

2 コンサルから何かを吸収したいという気持ちを湧き立たせること

このためには、この会社は社長の様子から見て例えばワンマンぶりが問題だろう、ということをやめ推測して仮説を立て、社長にズバズバ言うこと。その会社をよくするためという一点に集中している限りこれで問題は起こらない。併せて、それにはこんな手を打つことが必要だ、ということを提示・提案すること。社長とてメンツがあるからこうしたことは皆の前でなく、一対一の場で言うこと。

3 強い実行力を維持してもらうこと

一番やりにくいのは「優柔不断な社長だ」と昔よく聞かされたが、確かに、納得して何かを決めても、次回行ったとき何も進んでいない、というのはこれまた先方にとっても損な話である。経営管理の習慣の問題であるが、この点については次号以降にゆずる。

契約に入る最初の段階でじっくり社長と話し合い（初期診断はそのための材料としても極めて重要だが）、お互いによく理解し合うことが大切だ。「相性」などというものもないが、相手のことを思う限り、そんなものは後ろへ隠れてしまうものだ。

はんなり企業内診断士

杉村麻記子
(すぎむらまきこ)

勤務先
伊藤忠テクノサイエンス(株)

京都出身

mailto:m.sugimura@nifty.com



独立診断士でご活躍の方のような派手さはないけど明るく華やか..そんな企業内診断士を目指しませんか?

このコーナーでは、診断士のマジョリティである企業内診断士の紹介や、研究会や診断実務など役立つ情報を提供していきたいと思えます。

記念すべき?初回は、診断京都の編集担当者であり企業内診断士の私自身の活動をご紹介します。

1. 現在の仕事について

ITベンダーにて、企業の情報化推進するための企画策定、ソリューション提案、システム化の支援を行っています。

ツールやパッケージありきのシステム提案ではなく、経営戦略や業務改善を意識しながらの戦略情報化を提案することで付加価値を提供できるように心がけています。

最近は変化への迅速な対応、意思決定のスピードアップ、ナレッジ等情報共有の推進、セキュリティ確保などの視点から、「企業情報ポータルによるアプリケーション統合」の案件が中心となっています。

2. 診断士の資格をどう活かしている?

診断士の資格を取得してはや10年が経過しようとしています。当初学んだことをそのまま活かすというよりは、3次実習や更新のための診断実習【実際の企業に対する診断実務】などチームで実戦をこなした経験が役立っています。

具体的には、現状分析、課題抽出手法、改善提案策定といった一連の手法は戦略情報化を進める上で欠かせません。

また支部の会合や研究会等で、様々なお立場の方のお話を聞くだけでも新しい発見があります。このご縁はこれからも大切にしていきたいです。

3. これからの目標は?

企業内にいると、特定の部門や業務等に注力することが多く、経営者の視点を見失いがちです。診断士として大局小局双方の視点を忘れずにもって業務に従事したいです。

また新制度になって、更新要件として年6日以上経営診断に従事することが必要となります。企業内診断士にとってはハードルが高くなったかもしれませんが、この機会を捉えて、実務研修などに参加し、診断士としてさらなるスキルアップをめざしていきたいと思えます。

京都支部 研究会のご案内

現在京都支部で開催されている主な研究会は以下のとおりです。
ご興味のある分野の研究会に一度参加してみませんか?

研究会名	活動内容	代表者
経営革新支援研究会	平成18年8月度で「開催231回目」となる京都支部の看板研究会。次回研究会は、9月13日(水) 18時30分から1時間30分	村上 薫
経営品質研究会	「経営品質賞」を受賞した小規模企業等の事例研究、経営品質に関連した考え方・手法等の研究、品質セミナーの企画実施等。	藤原 茂寿
個人情報研究会	プライバシーマーク取得企業の実態調査、個人情報保護施行後の問題事例の収集・分析、中小企業支援マニュアルの編集。	恩村 政雄
農業経営支援研究会	過疎地域の再生・振興、遊休農地の活用、人材を切り口としたビジネスモデルの確立、農業経営診断スキル確立のための診断実施をグループで検討。	山崎 忠夫
IT研究会	京都の伝統産業、商品・サービス、京都ブランドのデータベース化	中路 悦雄

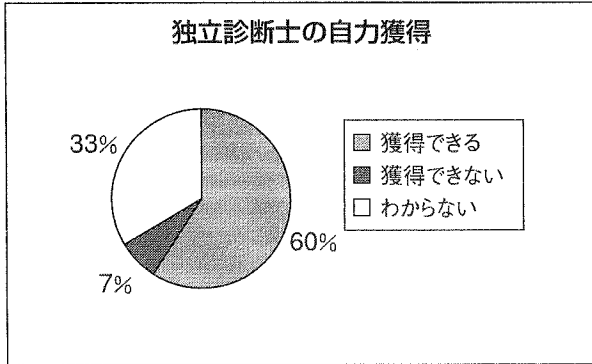
※お問い合わせは京都支部まで。

診断実務従事要件更新ポイント獲得に関するアンケート調査

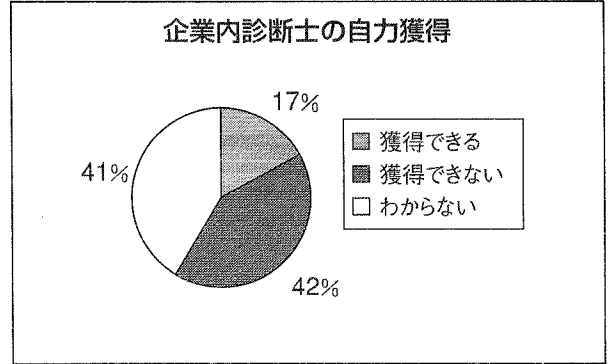
平成18年5月実施の京都支部会員へのアンケート集計結果は以下のとおりでした。

1. 回答者数は60人で回答率は約47%。回答者の内訳は独立診断士45.0%、企業内診断士48.3%、休業中その他6.7%。
2. 更新ポイントの自力獲得については、自力獲得可能35%、獲得できない28%、わからない38%。
独立診断士および企業内診断士の自力獲得見込みについては、次の円グラフのとおり。

〈2-1〉 独立診断士の自力獲得見込み

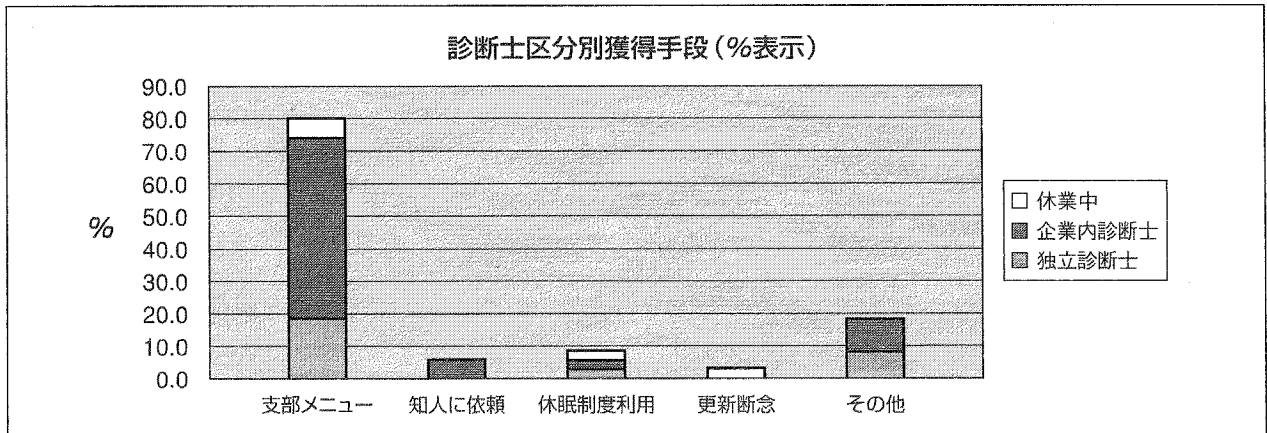


〈2-2〉 企業内診断士の自力獲得見込み



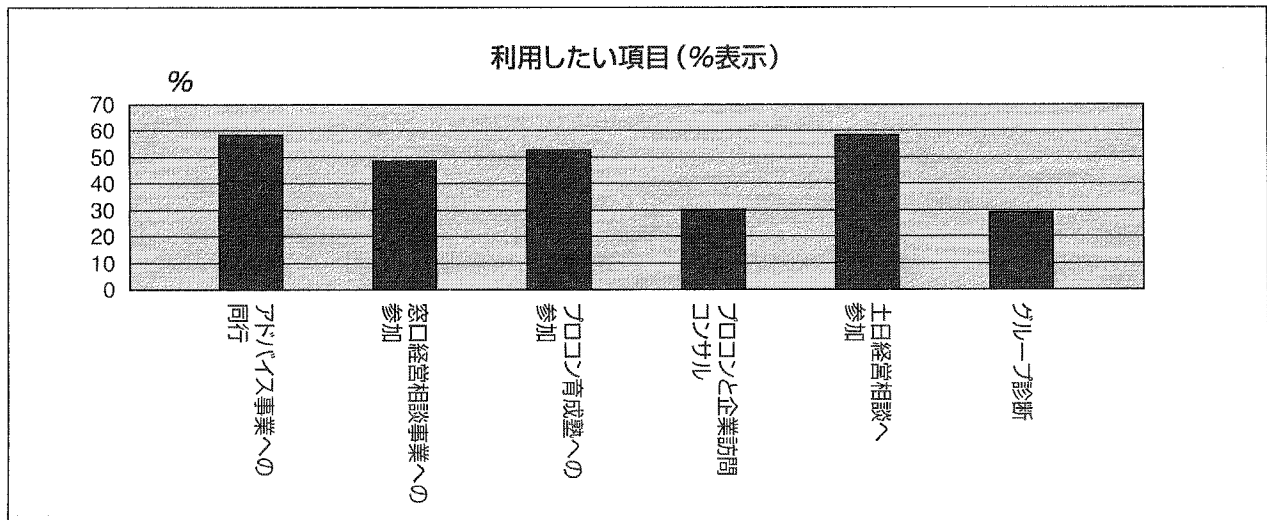
3. 更新ポイント獲得の手段

更新ポイント獲得の手段として最も期待されているのは、支部メニューである(下図参照)。

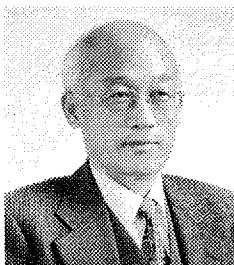


4. 支部メニューの中で利用したい項目(複数回答)

利用したい項目として挙げられているのは、下図のようであった。



成岡 秀夫



●No.2はトップをサポートするのが役目

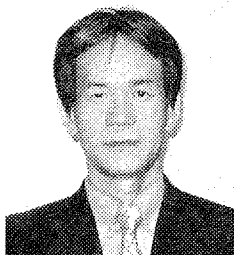
このたび副支部長を拝命いたしました。副支部長とはなんぞや、という議論もあるかもしれませんが、会社で言えば副社長に該当するポジションだと心得ています。社長が組織の責任者ではありますが、一人ですべてをカバーすることはできません。また、一人に何もかもが集中すると、組織の健全な意思決定の妨げにもなります。

ゆえに、セカンドポジションの大事なことは、「牽制とサポート」という一見矛盾することを、力まずにやることだと思っています。これは、どこまで行ってもトレードオフの関係にありますから。

さて、当診断協会では、今期の最重点課題である、新診断士制度への対応プロジェクトが、ようやく始動しました。といっても、まだ、具体的な議論には入ってはいませんが、とにかく、支部として何らかのアクションを起こす必要があります。成岡は、副支部長として、この重たいプロジェクトの責任者でもあります。この舵取りが、支部の今後の趨勢を決める大きな要素になることは、間違いないと思います。そういう意味では、トップを支えると同時に、新しい改革の一端を担うという、重たいミッションを背負ってのスタートとなりました。

まだ支部活動にも年数が浅いので、先輩諸兄の絶大なご支援をお願いするところです。よろしくご指導ください。

坂本 淳

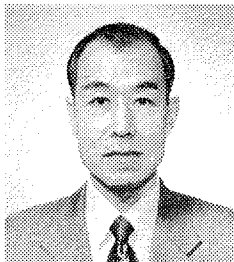


時代の変化の中で、診断士に求められるもの、診断士を取り巻く環境も大きく変わってきています。同時に、中小企業診断協会京都支部が求められるものも多様化しています。

今年度、私は主に会計とホームページを担当させていただきますが、支部の活動全体の中で他のご担当の方と連携を取り、支部に役立つ行動を心がけたいと思います。支部活動が活発になると同時に、会計に関しても迅速で適切な対応が求められます。

事務担当の方と連携を取り、リアルタイムで透明性のある経理・会計処理を管理したいと思います。また、ホームページを活用した広報、会員の皆様への迅速で適切な情報提供、さらには支部の情報化の推進に積極的に取り組みたいと考えております。

中村 久吉



子供の頃から練習が嫌いで、いつもぶっつけ本番でコトに臨んできました。従って、いつの間にか直前追い込み型の人間になり、追い込みに成功したり失敗したりの場合当たり人生になっているようです。反面、腰は軽い方で、狭いネットワークに軽いフットワーク=こまめなタイプと評されています。(そう言えば私はネズミ年生まれです)

で、診断協会京都支部で何をするのかと言えば、特段の得意技を持ち合わせていませんので、とにかく小間使いから始めて縁の下の力持ちみたいなコトをするのが妥当なところかと思っています。事務や総会運営のお手伝い、今年では会報誌「診断京都」の編集、企業内診断士活性化、リレバンを核とした金融機関連携の構築、個人情報保護の役割といった内容です。

もう一つ、どういう訳か、私は人から愚痴を良く聞かされます。多分、護美箱と思われているのでしょうか、老若男女を問わず半世紀にわたり人様のストレス解消に一役買ってきたように思います。その様に、私はモノを云いやすいタイプだろうと思いますので、多くの会員の皆様からの様々な提案・ご希望・愚痴をも承ります。何でも結構ですので、お気軽にお申し付けください。

研究会報告

研究会名/代表者	活動報告
<p>経営品質研究会 藤原 茂寿</p>	<p>平成18年度の当研究会の活動は①各府県の経営品質賞を受賞した小規模企業等の事例研究、②経営品質に関連した考え方・手法等の研究、③昨年9月に設立された京都経営品質協議会の活動に参画すること(当研究会は本年6月に協議会入会済)の3つです。また、実践活動として小規模事業者等を対象にしたセミナーを実施予定です。経営品質に関心のある会員はぜひご連絡ください。(なお、研究会は2ヶ月に1回開催)</p>
<p>農業経営支援研究会 山崎 忠夫</p>	<p>昨年度の「調査研究事業」の結果を受けて、研究会を立上げ。参加メンバー11名(松野修典、品川弥太男、安田徹、辻一幸、西河豊、岡原慶高、横倉幸司、山本知美、秋田英幸、坂本淳、山崎忠夫)3つの研究グループに分け活動中。既に、「京都ファーム」の診断準備に入るなど診断士の新しい活動領域の拡大に向けて着々と取り組みを進めている。</p>

